

Shakespeare Newsletter

日本シェイクスピア協会会報

2020 No. 1

(通巻 Vol. 60 No. 1)

Shakespeare Newsletter

日本シェイクスピア協会会報

2020 No. 1
(通巻 Vol. 60 No. 1)

目次

コロナ渦のなかで(会長挨拶)	1
追悼 外山滋比古氏	2
外山滋比古先生を偲ぶ	5
2020年度シェイクスピア祭報告	6
第1回シェイクスピア勉強会(オンライン)報告	6
第59回シェイクスピア学会延期のお知らせ	7
2022年度委員選挙のお知らせ	8
web 投票導入についてのお知らせ	8
2020年度日本シェイクスピア協会奨励賞発表	9
60周年記念論文のお知らせ	10
2019年度決算報告	11
2020年度予算・2020年度補正予算	12
2019年度シェイクスピア基金会計報告・2019年度日本シェイクスピア協会 国際交流資金会計報告・2019年度懇親会費会計報告	13
シェイクスピア基金へのご寄附について	14
国際交流フェローシップ募集のお知らせ	14
ホームページ掲載内容に関するお知らせ	14
NOTICE BOARD	15
日本シェイクスピア協会賛助会員名簿	16

コロナ渦のなかで（会長挨拶）

河合祥一郎

本来なら第 59 回シェイクスピア学会を終えてその報告をすべき時期ですが、今年は残念ながら開催を見送らざるを得ませんでした。来年度に改めて立正大学品川キャンパスにて学会が開催される暁には、今年の方もあわせて盛大な大会となることを祈っております。

今はできることをやっていくしかありませんが、うれしい声も聞かれます。今年のシェイクスピア祭で予定されていた川地美子先生のご講演と戯曲リーディング『リア王』を、協会のホームページから音声配信したところ、遠方の方々から「いつもは東京まで行けないが、こうして聞けるのはありがたい」とのお声をいただきました。

今年 9 月に予定していました協会会員限定・参加費無料の第一回シェイクスピア勉強会も 9 月 22 日の 1 日限定でオンラインにより開催しました（詳細は本誌 6-7 ページをご覧ください）。また 10 月の選挙も今年からオンライン化に踏み切りました。こうした取り組みは今後も続けていけるとよいと思います。

世界に目を向けても状況は同じです。2020 年 11 月 5-7 日のアジア・シェイクスピア学会（ASA）もオンラインとなりましたが、私のパネル参加が決まったのもオンラインだからこそ可能だったことです。6 月にルーマニアのシビウ国際演劇研究者会議にオンラインで参加した際には、世界の各地から演劇研究者が参加し、アメリカでは朝の 4 時という時間で大変そうではありましたが、自分の部屋から国際学会に参加できるのはとても便利でした。新しい時代の国際学会のあり方でしょう。ただ、ペーパーを読み上げたり聴いたりしているときはよいのですが、その前後の付き合いがないのは残念です。

2021 年 7 月には国際シェイクスピア学会（World Shakespeare Congress）がシンガポールで開催され、私は「翻訳」のラウンドテーブルのオーガナイザーを務めます。せっかくの 5 年に 1 度の機会なので、世界のシェイクスピア学者たちと直接会える機会になってほしいと願っています。日本でのシェイクスピア研究活動を代表する者として精一杯努めます。

さて、日本シェイクスピア協会 60 周年記念論文集の応募原稿の締め切りは、2020 年 10 月 30 日です。ふるってご応募ください。

皆様の積極的なご参加とご協力を得て、今後ますます日本シェイクスピア協会が発展しますことを祈っております。

追悼 外山滋比古氏

岡本靖正

コロナ禍さなかの今夏 7 月 30 日早朝、外山滋比古氏が逝去された。享年 96 歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げる。氏は、私にとって、大学入学以来、半世紀以上に亘り、学問・生活万般の師であったので、以下、外山先生と呼ばせていただく。

外山滋比古先生は、関東大震災から間もない大正 12 (1923) 年 11 月 3 日、愛知県幡豆郡寺津町大字刈宿にお生まれになり、すでに英語が「敵性外国語」と言われた昭和 16 (1941) 年 4 月、東京高等師範学校文科第三部 (英語専攻) に入学され、戦時中の特別措置により、19 年 9 月に繰り上げ卒業、10 月に東京文理科大学英語学英文学専攻に進まれたが、翌年 3 月陸軍に入隊、終戦を迎えた翌年 10 月復学された。戦前・戦中から一転して英語、アメリカ英語がもてはやされるなか、あえて現代英語から遠いイギリス 14 世紀の詩人 Geoffrey Chaucer を読むことに専念され、卒業論文は 'Chaucer's *Troilus & Criseyde* with special reference to Shakespeare's *Troilus and Cressida*'.

先生は心底に反骨精神を蔵しておられた。太平洋戦争が迫る中「敵性語」を専攻し、あるいは高等師範時代、英語のスピーチ大会で「忠臣蔵の誤解」という吉良義央の弁護論を試み (「逆風」、『中年記』、みすず書房、2007)、戦後、留学熱が盛んな中で留学しようとなさらなかった (「留学ざらい」、『新・学問のすすめ—アウトサイダーの世界—』、講談社学術文庫、1984、元『葦のずいから』、角川書店、1970 ; 「留学を望まず」、『中年記』) のは、その端的な現れである。外国の文学・文化について学び、研究するに当たっても、あくまでも外国人、アウトサイダーの立場を持すること、そして自分の頭で考えることを第一義としておられた。

外山先生の生涯を通じての多産な思索・執筆活動の出発点は、「修辭的殘像」の仮説にあった。「言葉は、書かれるとはっきりするが、一つ一つは断絶した単位のつながりからなっている。その一つ一つの単位は、静止し、他の単位との間には、程度の大小の差はあっても、表現的空白をもっているものである。こういう静止的な、しかも、各単位ごとにその間に溝のあるものつらなりである言葉を読むと切れ目のないつながりの、動きのあるものとして理解されるのである。動きの方は、…… 読む人の眼が文字に沿って動くから、静止的なものに動きが生ずるのであるということで一応納得するとしても、切れ目のあるはずの言葉から、どうして、心理的には切れ目を感じないのであろうか」 (外山滋比古著作集 1 『修辭的殘像』, pp. 5-6、みすず書房、2002)。これが基本的な問いである。

「一つ一つの単位が、静止し、相互の間に表現的空白のある言葉のつらなりは、ちょうど映画のフィルムのつながりのようなものである。また、それを読んで理解する作業は、映画を見て、連続と動きを感じずに似ている。映画が一つ一つは静止し、相互に少しずつ違った像のフィルムを一定の速度で映写すると、われわれに運動の錯覚を生ずる、その錯覚を利用したものであるのは周知である。この錯覚を殘像という。言葉を「読む」に当って、…… 非連続の言葉から動きを感じとる能力も、やはり殘像作用の一種と考えてよいであろう。映画に働く錯覚が生理学的殘像であるのに対して、これは心理的殘像である。ある速度で読むと、言葉を構成している各単位の間にある空間が消えて感じられなくなるのは、この

心理的残像作用によるものと見てよい。この残像作用を「修辭的残像」と呼ぶことにする」(同上、p. 6)。

その発見のきっかけは、先生的一种詩的な経験にあった。「昭和二十五年の初夏、ある日の午後、バスをおりて家へ帰る道を歩いていると、麦畑の向うから琴の音がきこえる。遠くで大きくはやわらかくなだらかに流れるようであった。それをきいたとたんに、ずっとながい間考えていたことに明確な形が与えられたように感じた。ひとつひとつが切れ切れになっていることばが文章になるとどうして、切れ目のない意味になるのか、考えあぐねていたのが、風に乗ってきこえてきた琴の音が点ではなく線になっているのと同じだと思いついたのである。修辭的残像の仮説はそこから始まる。」(「著作ノート」、前掲書)

「残像の仮説は生産的着想(ジェネラティブ・アイディア)であった。そのあと派生する新しい概念がいくつもあらわれた。読みのメカニズムはそのひとつであり、作者とは別に読者の立場のあるべきことにも気づいた。読者論の萌芽である」(同上「著作ノート」と、ご自身も書いておられるが、『修辭的残像』初版(垂水書房、1961)は「読者の方法」と副題され、「読者論の輪郭」を収めていたが、それがさらに展開されて、『近代読者論』(垂水書房、1964)、さらにその先に「異本論」「古典論」が生まれる。作家論、作品論と並立する読者論の主張は、Stanley Eugene Fish, Wolfgang Iser, Hans Robert Jaussらの読みの理論、受容美学に先んじるものであった。昭和37(1962)年に、「修辭的残像—読者の方法」により文学博士の学位を受けられた。

一方で、先生は、東京教育大学紀要「西洋文学研究」に、「ShakespeareのStage Direction」(1956)、「18世紀におけるShakespeareのEmendation」(1961)、「ShakespeareのPunctuation」(1963)を書いておられた。王政復古後、劇場構造・上演様式・観客層が変化し、Shakespeareが翻案化され、さらに18世紀になって、活字文化が発達して読者のためのShakespeare全集が相次ぐなかで、Shakespeareの古版本テキストが付加・修正を施される。それが端的に現れるのがstage directionであることに着目して、*Romeo and Juliet*を例に、古版本と18世紀諸版の異同を検証し、Shakespeareが異本化されていく様を実証しておられる。Emendation論も、*Romeo and Juliet*古版本テキストのdoubtful readingsを中心に、18世紀諸版との比較調査、Punctuation論は、Malone版(1790)の第1幕第1場に限定した、Q1, Q2, F1とMalone版のpunctuationの地道な比較研究で、同様に18世紀諸版の異本化の一端を明らかにしている。既刊分のShakespeare Quarto Facsimiles (Oxford: Clarendon Press)は外山研究室の書棚にあったが、Charlton Hinman, ed. *The Norton Facsimile: The First Folio of Shakespeare*も、18世紀Shakespeare全集諸版の復刻版もまだ存在しない時代で、作業は主としてA New Variorum Edition of Shakespeareに基づいて行われたと思われる。

私の幸運は、福原麟太郎先生の『英文学入門』と出会い、そして外山滋比古先生にめぐり会えたことであった。北海道に生まれ、父の仕事の関係で、国民学校入学後、ほぼ3年ごとに転校(国民学校・小学校3つ、中学校2つ、高等学校2つ)を繰り返し、農村と炭鉱町で中学時代まで野球にばかり熱を上げていた英語好きが、高等学校3年、大学進学を考える時期になって、日本にどのような大学があるかも知らぬまま、家から車で1時間ほどの、本屋のある町、岩見沢に掛けて、たまたま福原麟太郎先生の『英文学入門』(河出市民文庫)を見つけ、その面白さに福原先生のもので勉強したいと思いついた。幸い合格して、喜び勇んで入学してみると、福原先生はその春退官されたあとであったが、外山先生との出会いは、それを補って余りあるものであった。

昭和 30 (1955) 年 4 月、東京教育大学文学部英語学・英米文学専攻に入学した私たち 36 名は、斎藤美洲、安井稔、外山滋比古三先生に担任していただくとともに、12 名ずつ 3 つのクラスに分けられ、講読 (演習) は 4 年間クラス単位で行われた。外山先生は、1 年次に W. Somerset Maugham の *Summing Up*、2 年次に Oliver Goldsmith の *The Vicar of Wakefield*、3 年次に *Romeo and Juliet*、大学院で T. S. Eliot の評論をお読み下さった。入学後間もなく、「英語青年」がどのような雑誌であるかを知り、私たちは外山先生がその編集をしておられることを自分たちの手柄のように誇らしく思っていた。先生は 32 歳、ちょうどその頃から、次々に上記の独創的な論文を発表しておられた。のちにロングセラーとなる『思考の整理学』の中核部分は、4 年次初めの土曜午後に、番外の講義として行われた「論文の書き方」にあった。その種はさらに福原麟太郎先生が東京文理科大学で話された同種の講義にあると先生は漏らされたことがある。

外山先生は、昭和 26 (1951) 年から福原麟太郎先生 (主幹) のもとの「英語青年」(研究社) の編集を任されて、38 (1963) 年まで 12 年間編集に当たられた。私たちが入学した当初は、RF 先生と ST 先生がお二人で「英学時評」を書いておられたが、間もなく ST 先生単独の執筆となった。最後の 6 年間は、私が学部・大学院に在学していた時期であった。昭和 42 年 4 月には「英語文学世界」(英潮社、52 年 4 月まで)、52 年 7 月からは「月刊ことば」(英潮社、55 年 6 月まで) をそれぞれ創刊、主幹編集を務められた。この間、東京教育大学の筑波移転が決定し、移転反対の立場をとってこられた先生は、昭和 43 年、東京教育大学を辞してお茶の水女子大学に移られ、平成元 (1989) 年、停年と同時に昭和女子大学 (大学院) 教授となられて、平成 9 (1997) 年退職された。

先生は「長」の付く役職がお嫌いで、学部長や学会の会長に選ばれたり、選ばれそうになったりしても、それを避け、あるいは辞退されたが、大学の中で「長」の役職を完全には避けきれず、お茶の水女子大学では、一般の大学教師にとっては務めるのが最も難しい附属幼稚園長を進んで引き受けられた。幼児教育、幼児期の言葉の習得の重要性に関する著作がいくつもその経験から生まれた。日本英文学会では、昭和 52 (1977) 年から 56 年まで理事を、そして 53 年には『日本英文学会五十年小史』(日本英文学会) の編集責任者を務めておられる。昭和 36 (1961) 年に再発足した「第二次」日本シェイクスピア協会でも、前年の世話人會に加われ、その後 60 (1985) 年 3 月まで評議員を務められた。

先生は平成 14 (2002) 年から 15 年にかけて、それまでの主要なお仕事を全 8 巻の著作集 (みすず書房) にまとめられた。たぶんその頃、郷里の市役所から、「ご本を何冊もお書きのようですが、正確には何冊になりますでしょうか」と電話で問い合わせられて、「何となく」立腹されながら、「そんなこと、ボクにもわかりません。百三十冊くらいまでは数えていたのですが、その後ははっきりしません」(「ことば、ことば」、『中年記』) と答えておられる。ご逝去を機に、これまでどの出版社からどのような本をお出しになっておられたか調べてみた。数だけ挙げれば、著作集をそれぞれ一冊、さらに、例えば『思考の整理学』を、最初の「ちくまセミナー」版、文庫版、ワイド版それぞれ一冊と数え、共著、共編著を入れて、最後の『老いの練習帳』(朝日新書、2019) まで、69 社から、少なくとも 239 冊、そのほかに共訳著が 5 点ほどある。驚くべきご健筆のご生涯であった。合掌

外山滋比古先生を偲ぶ

会長 河合祥一郎

日本シェイクスピア協会の会員でもいらっしゃる外山滋比古先生（お茶の水女子大学名誉教授）が2020年7月30日に亡くなりました。96歳でした。世間では『思考の整理学』などのベストセラーでよく知られていますが、『近代読者論』に基づいて読み手側の視点からシェイクスピアを再考する『シェイクスピアと近代』や、異本（校訂）、ト書き、独白などに注目してやはり近代の視点を意識した『シェイクスピア考』（『外山滋比古著作集』第7巻）などの著作があります。私自身は学生時代に先生の『日本語の論理』（中央公論社）を愛読し、先生が編纂なさった『英語名句事典』（大修館書店）に大いにお世話になった一人です。2007年に『中年記』をお出しになったときに読売新聞に書評を書かせていただいたのをきっかけに直接お葉書をいただき、お食事を一緒にさせていただいたのは、身に余る光栄でした。一時も黙ることのない活力の権化のような方で、いろいろなことが楽しくてしょうがない、いろいろ思いついてしかたないという感じでした。メモの方法とかそういったお話を聞かせて頂いたように記憶しています。「闊達」という言葉がよく似合い、邁進する気魄が強くていらっしゃったので、尊敬申し上げていた私は少なからぬ影響を受けたように思います。

その後、2010年度のシェイクスピア祭で講演をお願いできないでしょうかとお葉書をお送りしたところ、「諾」に大きく〇をつけてお返事くださったのが微笑ましく思い返されます。講演の題名は「『あらし』のあと」でした。

あのときすでに86歳でいらしたのに衰えるところは微塵もなく、魅力あるお話しぶりでした。

外山先生という大きな『あらし』のあとに残された私たちは、茫然自失とするしかありません。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。合掌。

2020年度 シェイクスピア祭 報告

2020年4月25日に早稲田大学にて開催を予定しておりましたシェイクスピア祭は、新型コロナウイルス感染拡大による社会的状況も考慮し、大変残念ながら中止することにいたしました。

実際のシェイクスピア祭は実施できませんでしたが、その代わりに、予定しておりました川地美子先生のご講演と『リア王』リーディング公演を音声でお届けすることになりました。困難な中、ご講義を録音してくださいました川地美子先生には心よりお礼を申し上げます。また『リア王』リーディング公演につきましては、河合祥一郎会長の演出のもとでZoomによる稽古と編集が何度も行われ、努力と苦勞の結果、音声収録の完成に至りました。現在、当協会のホームページに、講演とリーディング公演の音声録音がそれぞれ掲載されておりますので、お聴き頂けましたら幸いです。

なお、総会につきましては、シェイクスピア祭の中止に伴い、9月22日（火・祝日）13時からオンラインで開催することになりました。何卒ご理解のほどをお願い申し上げます

第1回 シェイクスピア勉強会（オンライン） 報告

今年度は新しい企画としてZoomによる会員限定のオンライン勉強会を9月22日（火・祝）に実施した。学会とはちがうレベルで、日本全国の会員がつながって一つの作品について自由に意見を交換して、各自の思考を深める機会になればと思って企画したものである。Zoomは初めてという会員もいたので、20日に接続確認セッションを設け、Zoomの使い方にも慣れて頂いたうえで、実施した。勉強会の前にオンラインの総会を催したが、予定通りにスムーズに行われ、以下の予定していたスケジュールをほぼ時間通りに行うことができた。

- 13:00 ~ 13:20 総会＋奨励賞授与式
- 13:20 ~ 13:30 休憩
- 13:30 ~ 14:20 「『ヘンリー四世』のフォールスタッフの笑いの矛盾 ——
日常と非日常」講師：河合祥一郎
- 14:20 ~ 14:55 質問・ディスカッション
- 14:55 ~ 15:00 休憩
- 15:00 ~ 15:50 BBC制作 *Shakespeare Uncovered* の第5巻（50分）全編視聴
- 15:50 ~ 15:55 休憩
- 15:55 ~ 17:00 スペシャルゲストの松岡和子先生と河合のトーク＋質疑応答

視聴した DVD は丸善出版から『シェイクスピア——その魅力に迫る』と題して団体向けに発売されているシリーズの第 5 巻で、ジェレミー・アイアンズが案内役となって『ヘンリー四世』『ヘンリー五世』の世界を掘り下げるもの。丸善出版のご厚意により視聴が可能となった。記して感謝する。

ゲストの松岡和子先生とは綿密な打ち合わせをし、14 時過ぎからご発言をいただき、内田樹の『街場の戦争論』の一節がシェイクスピアの描くアジンコートの演説とどう関わるかなど刺激的なお話をいただいた。Zoom であるため出入りが頻繁にあったが、多い時で 76 名ほどの参加者数になっていた。

私からの問題提起は、「アフター・コロナ批評を考えたとき、フォールスタッフの捉え方は以前の批評と同じではいられないのではないかと。とくに《作品の枠組みを超越する偉人としてのフォールスタッフ》といった A・C・ブラッドリーから発して高橋康也を経てハロルド・ブルームに至るような人文主義批評が果たしてこれからも可能なのか」という問いかけだった。松岡和子先生からは『第 1 部』のフォールスタッフは圧倒的な量の if を用いて私たちの想像力を刺激するが、『第 2 部』において激減するという点と、we few, we happy few の言葉の持つ効用について解説いただき、シェイクスピアがいかに巧みに作品を構築しているかを語っていただいた。

参加者からも活発な意見をいただくことができ、話は最近のオールフィーメルの『ヘンリー四世』上演（フィリダ・ロイド演出、2016 年）にまで及んで大変有意義な会だったと思う。終了後も「学会とは違った雰囲気でも各人が遠慮なく質問できた」「リラックスして参加できた」「純粋な興味から楽しめた」などの感想とともに継続を希望する声や、今後の Zoom 勉強会としてはパネルディスカッションが効果的ではないかなどのご意見など、多数の反響を事務局にお寄せいただいた。今回の勉強会がどこまで成功と言えるのかは主催側の判断すべきことではないが、できればこうした試みを今後も続けていくとよいと思う。最後に、多大な協力をしてくださった松岡和子先生、事務局の菅原さん、そして参加して下さった会員の皆様に感謝申し上げます。

(河合祥一郎)

第 59 回シェイクスピア学会延期のお知らせ

誠に残念なお知らせですが、諸般の事情を検討した結果、今年度の学会は 1 年延期せざるを得ないという結論に至りました。学術団体としての社会的責任を踏まえての苦渋の決断です。なにとぞご理解いただきますようお願いいたします。なお、2021 年度は立正大学（品川キャンパス）を予定しています。皆様、奮ってご応募ください。（セミナーはそのまま 1 年間延期となりましたので、新たなテーマは募集いたしません。）

2020年度委員選挙のお知らせ

委員候補者推薦会議

井出 新(議長)

小林 潤司

篠崎 実

竹村 はるみ

既にお知らせしております通り、本年 10 月に委員選挙が行われます。今回の委員選挙に係わる業務は「委員選挙に関する内規」に従い、委員候補者推薦会議が協会事務局の協力を得て実施いたします。

先般 3 月に委員候補の推薦をお願いいたしましたが、その後、7 月 11 日の会議を経て、11 名の候補者が確定いたしました。候補者名簿、選挙方法などの詳細は、10 月 2 日に発送する「**投票要領**」をご参照ください。

なお、投票要領は、2020 年度年会費を 10 月 1 日までにお納めいただいた会員に送付いたします。郵送による投票をご希望の会員には、投票用紙も同封してお送りいたします。10 月 1 日までに会費納入済みにもかかわらず、10 月 10 日を過ぎても投票要領が届かなかった場合は、事務局までご連絡ください。

日本シェイクスピア協会委員選挙への WEB 投票導入のお知らせ

現在、日本シェイクスピア協会委員会は会長を含む 15 名によって構成されていますが、そのうち 7 名が 2021 年 3 月をもって委員の任を退きます。この後任の選挙につき、規約の「委員選挙に関する内規」を一部改正して、このたび Web 投票を導入することにいたしました。

投票手続きの簡素化、予算の削減、そしてなによりも、協会運営により多くの会員の意思を反映させることを目指しての改革ですので、皆様には、ぜひご投票いただきますよう、なにとぞよろしく願いいたします。

2020年度 日本シェイクスピア協会奨励賞発表

授賞論文：Chihiro Ojima. ‘Within and Without the City Wall: The Theatricality of Marital Relations in Thomas Dekker and John Webster’s *Westward Ho* (1604)’.
(*Shakespeare Studies*, vol.58 [2020] pp.1-19.)

5月11日に開催された選考委員会（メンバーは日本シェイクスピア協会委員全員、メール会議）の審議により、今年度の奨励賞は上記論文に授与されることが決定しました。

授賞が決まった小嶋ちひろ氏（三重大学准教授）の論文は、トマス・デッカーとジョン・ウェブスターの共作『ウェストワード・ホー』における婚姻関係と喪取られ男の問題を演劇性という点から分析しています。本作品では〈見られる対象としての女性、見る観客としての男性〉という構図が覆され、女性が自ら物語・筋書きを作って男性を操作し、見られる対象へと位置づけていることが論じられています。さらに、本論文はジェンダー批評の解釈に空間論を加えており、ロンドンと郊外、ワインハウス、劇場等の空間の緻密な分析を通じて、劇における女性と男性の関係のダイナミクスを明らかにしています。

国内では扱われることの少なかった『ウェストワード・ホー』について、先行研究と批評理論を丹念に参照しながら、新たな読みを提示した論文として大いに評価できます。本論の執筆者が、今後さらに研究を深め、演劇研究の進展に貢献していくことへの期待を込めて、奨励賞を授与することに決定しました。

奨励賞の選考は毎年度行われますので、新進研究者の会員のみなさまがさらに積極的に *Shakespeare Studies* と *Shakespeare Journal* に投稿してくださることを期待しております。

60周年記念論文集のお知らせ

日本シェイクスピア協会では、協会創立 60 周年を記念して、日本語による記念論文集刊行を決定し、広く会員の皆様の論文を募集することとなりました。以下の応募要領にしたがって、ふるってご応募ください。

論文集標題	刊行時に決定します
出版社	研究社出版
応募締切	2020 年 10 月 30 日
刊行予定	2021 年 10 月

1. シェイクスピア作品について、作品論および作品をとりまく諸相（上演や翻案、手稿流通、出版、シェイクスピア作品以外のテキストとの関連など）に関わる論文を募集することとする。
第 1 部 作品論、第 2 部 作品論以外
2. 応募論文は和文で書かれ、未発表のものであること。ただし、口頭のみですでに発表されているものは、その旨明記されていれば審査対象となる。
3. 無記名審査を行なうため、論文には応募者の名前を記さずに、論文タイトルと本文および註という体裁とすること。
4. 論文は、註を含めて 14,000 字以内とする。ハードコピーは、A4 版用紙（横置き）に縦書き 40 字× 25 行で印字すること。
5. 註は論文末尾にまとめて付けること。小見出しをつけること。小見出し、表記方法、註の形式、引用の仕方など論文の書式に関しては、日本シェイクスピア協会編『甦るシェイクスピア：没後 400 周年記念論集』（研究社、2016 年）を参照すること。
6. 上記要領で作成された論文のハードコピー 5 部に、応募者氏名、論文標題、所属、現住所、e-mail アドレス、必要な場合には口頭発表に関する注記を記した別紙のカヴァーレターを添えて、事務局宛てに郵送すること。
〒 153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1
東京大学（超域）河合祥一郎研究室 日本シェイクスピア協会
7. 論文の採否は編集委員会が決定し、追って通知する。なお、原稿は返却しない。
8. 採用された論文については、編集委員会が印刷用に word または rtf 形式の電子ファイルの提出を求めることになる。

2019年度 決算報告 (2020.3.31)

【収入の部】

会費	¥	3,970,198
雑収入		77,142
シェイクスピア祭共催金 (日本英文学会)		32,075
学会協賛金 (鹿児島観光協会)		105,000
学会時書店出店料 (賛助会員以外)		10,000
.....	
小計	¥	4,194,415
前年度繰越金	¥	5,771,683
.....	
合計 (収入計+繰越金)	¥	9,666,098

【支出の部】

<i>Shakespeare Studies</i>	¥	315,983
(送送料金含む)		
<i>Shakespeare Journal</i>		337,054
* (NL 関連/送送料金含む)		
シェイクスピア祭		140,817
シェイクスピア学会		332,586
(小委交通費含む)		
シェイクスピア勉強会 (2020年度より開始)		
奨励賞		34,919
委員会費		0
事務局経費		75,483
(PC 積立金等含む)		
HP 運営費		52,453
(管理費含む)		
事務局人件費		837,898
一般印刷費		60,571
通信郵送費		198,511
交通費		275,430
委員選挙費用 (引当金)		200,000
消耗品費		39,242
予備費		0
.....	
小計	¥	2,900,947
次年度への繰越金	¥	7,065,151
.....	
合計 (支出計+繰越金)	¥	9,666,098

[註]NL = *Shakespeare Newsletter* の略

2020年度 予算 (2020.5.17)

【収入の部】

会費	¥	3,700,000
雑収入		40,000

.....

小計	¥	3,740,000
----	---	-----------

前年度繰越金	¥	7,065,151
--------	---	-----------

.....

合計	¥	10,805,151
(収入計+繰越金)		

【支出の部】

<i>Shakespeare Studies</i>	¥	470,000
(発送料金含む)		

<i>Shakespeare Journal</i>		490,000
(NL 関連/発送料金含む)		

シェイクスピア祭		150,000
----------	--	---------

シェイクスピア学会		360,000
(小委交通費含む)		

シェイクスピア勉強会		80,000
------------	--	--------

奨励賞		35,000
-----	--	--------

委員会費		2,000
------	--	-------

事務局経費		70,000
(PC 積立金なし)		

HP 運営		54,000
(管理費含む)		

事務局人件費		839,000
--------	--	---------

一般印刷費		87,000
-------	--	--------

通信郵送費		270,000
-------	--	---------

交通費		250,000
-----	--	---------

委員選挙費用(選挙費)		200,000
-------------	--	---------

消耗品費		50,000
------	--	--------

予備費		50,000
-----	--	--------

.....

小計	¥	3,457,000
----	---	-----------

次年度への繰越金	¥	7,348,151
----------	---	-----------

.....

合計	¥	10,805,151
(支出計+繰越金)		

2020年度 補正予算

(2020.9..22)

【収入の部】

会費	¥	3,700,000
雑収入		40,000

.....

小計	¥	3,740,000
----	---	-----------

前年度繰越金	¥	7,065,151
--------	---	-----------

.....

合計	¥	10,805,151
(収入計+繰越金)		

【支出の部】

<i>Shakespeare Studies</i>	¥	470,000
(発送料金含む)		

<i>Shakespeare Journal</i>		490,000
(NL 関連/発送料金含む)		

シェイクスピア祭		150,540
----------	--	---------

シェイクスピア学会		17,000
(小委交通費含む)		

シェイクスピア勉強会		17,000
------------	--	--------

奨励賞		35,000
-----	--	--------

委員会費		2,000
------	--	-------

事務局経費		70,000
(PC 積立金なし)		

HP 運営		54,000
(管理費含む)		

事務局人件費		839,000
--------	--	---------

一般印刷費		87,000
-------	--	--------

通信郵送費		270,000
-------	--	---------

交通費		250,000
-----	--	---------

委員選挙費用(選挙費)		50,000
-------------	--	--------

消耗品費		50,000
------	--	--------

予備費		100,000
-----	--	---------

.....

小計	¥	2,951,540
----	---	-----------

基金へ繰り入れ	¥	1,000,000
---------	---	-----------

次年度への繰越金	¥	6,853,611
----------	---	-----------

.....

合計	¥	10,805,151
(支出計+繰越金)		

[註]NL = *Shakespeare Newsletter* の略

2018年度 シェイクスピア基金
会計報告 (2020.3.31)

【収入の部】

前年度繰越金	¥	3,764,881
寄附		90,000
利息		69
.....		
計	¥	3,854,950

【支出の部】

事務局移転関連	¥	170,559
寄附関連	¥	46,373
寄附関連	¥	228
.....		
計	¥	217,160

2018 年度残高 ¥ 3,637,790

2018年度 シェイクスピア協会
懇親会費会計報告 (2020.3.31)

【収入の部】

前年度繰越金	¥	69,529
懇親会費		182,800
.....		
計	¥	252,329

【支出の部】

懇親会会場支払い	¥	180,000
振込手数料 (指定口座宛)		440
.....		
計	¥	180,440

2018 年度残高 ¥ 71,889

2018年度 日本シェイクスピア協会
国際交流資金会計報告 (2020.3.31)

【収入の部】

前年度繰越金	¥	
(国際交流フェローシップ [®] 以外)		1,926,937
(国際交流フェローシップ [®])		4,820,844
利息		
(国際交流フェローシップ [®] 以外)		4
(国際交流フェローシップ [®])		40
.....		
計	¥	6,747,825

【支出の部】

.....	¥	0
計	¥	6,747,825

シェイクスピア基金へのご寄附について

日本シェイクスピア協会では、円滑な事業運営や新規事業の推進のため、ご寄附をお願いしております。

2020年2月1日から9月30日までに皆様からお寄せいただいたご寄附の総額は、102,000円となりました。ご寄附いただいた方々のお名前をここにご報告させていただき、皆様のご理解とご協力に対して心より御礼申しあげます。

寄附者名簿（50音順） 安達まみ様、蒲池美鶴様、住本規子様、
関場理一様、山田昭廣様（以上5件）

国際交流フェローシップ募集のお知らせ

審査時期は4月、10月の年2回ですが、応募要件に記されている通り、参加を予定している学会の開催日より2ヶ月前以前の応募であれば、審査の対象となり、さかのぼっての支給となる場合もあります。詳細については当協会のホームページをご覧ください。

ホームページ掲載内容に関するお知らせ

以下については、日本シェイクスピア協会ホームページをご覧ください。ご要望があった場合は随時、コピーをとってお送りいたします。

規約全文、シェイクスピア祭報告詳細、学会セミナー報告、シェイクスピア・ワークショップ報告、国際交流フェローシップ応募要項、*Shakespeare Studies* 投稿規程、*Shakespeare Journal* 投稿規程、日本シェイクスピア協会奨励賞規程、入会案内。

Notice Board

- ◆ 2020年2月28日 *Shakespeare Newsletter* 2019 (通巻 Vol. 59) No.2 を刊行。
- ◆ 2020年3月25日 *Shakespeare Journal* Vol. 6 (通巻 59) を刊行。
- ◆ 2020年3月25日 *Shakespeare Studies* Vol. 58 を刊行。
- ◆ 2020年3月31日 感染症拡大のため事務局業務の完全テレワーク開始。(3月5日より部分的テレワーク)
- ◆ 2020年4月23日 川地美子先生講演配信開始。(2020年度シェイクスピア祭プログラム)
- ◆ 2020年4月25日 2020年度シェイクスピア祭を感染症拡大のため中止。(3月23日に全会員宛の通知を発送)
- ◆ 2020年4月25日 2019年度会計監査を実施。(オンライン会議にて開催)
- ◆ 2020年5月11～17日 2020年度第1回定例委員会をメール会議にて開催。審議事項は以下の通り。1) 2019年度事業報告および2020年度地行計画について 2) 2019年度決算報告及び会計監査報告 3) 2020年度予算案 4) 2020年度委員選挙をWEB上に移行するための規約内規改正 5) 2020年度委員会日程 6) 2020年度学会について 7) その他
- ◆ 2020年度委員業務分担及び監事その他は以下の通り(敬称略)。
(会長) 河合祥一郎
(総務) 佐々木和貴[事務局長]、佐藤達郎[財務]
(学会) 末廣幹(チーフ)、末松未知子
西出良郎、本多まりえ
- (*Shakespeare Studies*) 芦津かおり(チーフ)、米谷郁子、中村未樹、(佐藤達郎)
(*Shakespeare Journal*) 石塚倫子(チーフ)、川田潤、杉浦裕子、鶴田学
(行事) 冬木ひろみ(河合祥一郎、佐々木和貴)
(ホームページ) 冬木ひろみ
(監事) 森祐希子、由井哲哉
(*Shakespeare Newsletter*) 総務、事務局(組版)
- ◆ 2020年5月11～17日 2020年度日本シェイクスピア協会奨励賞選考委員会をメール会議にて開催。
Chihiro Ojima, 'Within and Without the City Wall: The Theatricality of Marital Relations in Thomas Dekker and John Webster's *Westward Ho* (1604)' (*Shakespeare Studies*, vol.58) に対し、授与することを決定した。詳細については本文記事をご覧ください。
- ◆ 2020年6月9日 2020年度委員選挙へのweb投票導入のお知らせを全会員宛に送付。希望者は郵送での投票。
- ◆ 2019年7月4日 第2回定例委員会をオンラインにて開催。議題は以下の通り。1) シェイクスピア学会の延期および総会・勉強会の開催について 2) 2020年度委員選挙のオンライン化について 3) その他。
- ◆ 2020年7月9日 『リア王』音声配信開始(2020年度シェイクスピア祭プログラム)
- ◆ 2020年7月11日 2020年度委員候補者推薦会議をオンラインにて開催。11名の候補者を決定。

◆ 2020年7月14日 本年度学会の延期を全会員に通知。

◆ 2020年9月22日 総会、奨励賞授与式、および第1回シェイクスピア勉強会をオンラインにて開催。

◆ 2020年10月1日 *Shakespeare Newsletter* 2020 (通巻 Vol.60) No.1 を刊行。

◆ 2020年10月2日 2020年度委員選挙投票要領などを選挙権を有する会員宛に発送予定。

日本シェイクスピア協会賛助会員名簿 (五十音順)

株式会社 あさ出版
板橋演劇センター
インターナショナル・シアター・カンパニー・ロンドン (ITCL)
日本公演事務局
エディション・シナプス
カルチャヴィル合同会社
劇団山の手事情社 / (有)アップタウンプロダクション
株式会社 研究社
ケンブリッジ大学出版株式会社
公益財団法人 東京都歴史文化財団 東京芸術劇場
プロクエスト日本支社
丸善出版株式会社 映像メディア部制作グループ

※賛助会員がシェイクスピア祭、勉強会、および学会等で配布予定であったパンフレット類は、協会のホームページからダウンロードできます。

SHAKESPEARE NEWSLETTER

日本シェイクスピア協会会報
2020 (通巻 Vol. 60 No. 1)

2020年10月1日 発行

編集 日本シェイクスピア協会

発行人 河合祥一郎

発行所 東京都目黒区駒場 3-8-1

東京大学 (超域)

河合祥一郎研究室内

日本シェイクスピア協会

印刷 日本シェイクスピア協会

© 日本シェイクスピア協会 2020